

小学校国語科 「読むこと」「書くこと」の活用問題

先生方へ

- 1 問題は八問あります。次のような使い方ができます。
 - 授業中に練習として、問題を解かせる。
 - 宿題プリントや朝の学習等の課題として活用する。

- 2 取り上げられている調べ活動のテーマ、言語活動、出題学年は次のようになっています。

問題番号	調べ活動のテーマ（言語活動）	出題学年
1	阿波おどりについて（新聞づくり）	5年
2	水の使用量の変化について（報告文づくり）	5年
3	トキについて（新聞づくり）	5年
4	ゆずについて（リーフレットづくり）	5年
5	折り紙について（ポスターづくり）	5年
6	動物たちのねむりのひみつについて	5年
7	「ごんぎつね」新聞について（読書新聞づくり）	5年
8	六年生としてがんばりたいこと（文集づくり）	5年

- 3 解答は、問題用紙に記入します。言葉や文章で答える問題は、問題をよく読み、条件に注意して書くようにご指導ください。

1 阿波おどりについて(新聞づくり)

名前

小学校五年生の小林さんの班は、総合的な学習の時間に、阿波おどりについて調べました。次の問いに答えましょう。

一 小林さんは、集めた【資料1】をもとにして「阿波おどり新聞」を作ることにし、下書きをしました。

【資料1】と【新聞の下書き】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料1】

※段落のはじめにある①から⑥までの数字は、その段落の番号を表しています。

- ① 徳島市では、毎年、八月に四日間、阿波おどりが行われます。多くの観光客がおとずれ、町全体がおどりの熱気でつまれます。実は、阿波おどりのよさを伝えるために、いろいろな工夫がされています。
- ② 阿波おどりは、連というグループでおどります。それぞれの連は伝とうを大切に守っています。同時に、その連らしい特色をだすために、おどり方やいしよなどについて、つねに工夫をし、練習を積み重ねているのです。
- ③ 阿波おどりの期間中は、演舞場とおどり広場が各所につくられます。演舞場では、おどる人と見る人に分かれており、それぞれの連は観客に「見せる」ためにおどります。それで、観光客は、演舞場では席にすわって、本格的なおどりを楽しむことができます。おどり広場では、それぞれの連は、おどる人と見る人の区切りがない場所で、自由なふんいきの中でおどります。それで、観光客は、おどる人と一体となって、じかにおどりを楽しむことができます。
- ④ 演舞場でおどりたいけれども連に入っていないという人のためには、「にわか連」が用意されています。その日に集合し、実際に演舞場でおどることができるので、観光客にも喜ばれています。
- ⑤ 阿波おどりは夏だけのものではありません。何年か前に、徳島市の中心部に、阿波おどりに親しむ施設がつくられ、一年中、阿波おどりを楽しむことができます。写真や本などにより、阿波おどりの歴史を知ることができます。そこは、阿波おどりのよさを伝える施設であり、おとずれの人がふえてきています。
- ⑥ このように、阿波おどりは、いろいろな人たちによって、そのよさを伝える工夫がされ、よさが広げられているのです。

【新聞の下書き】

小林さんは、【資料1】をもとにして、次のような新聞の下書きを作りました。

阿波おどり新聞

ア

- 伝とうを大切に守っている。
- その連らしい特色を出すために、おどり方やいしよなどについて工夫をし、練習を積み重ねている。



いろいろなおどり場所のよさ

★観光客の立場から

- 演舞場のよさ
席にすわって、本格的なおどりを楽しむことができること

- おどり広場のよさ

イ

にわか連でおどり体験を

すぐにおどれるにわか連が観光客に……

一年中おどりを楽しむことができる施設

- 歴史を知る。
- 連の阿波おどりを見る。
- おどり体験をする。

(1) 【新聞の下書き】の上の段は、【資料1】の段落②をもとにしてまとめたものです。見出し
 アにはどのような言葉が入りますか。あとの1から4までの中からもっともふさわしいものを一つ選んで、その番号に○を付けましょう。

- 1 歴史と特色を大切にしている連
- 2 伝とうといししょうを守っている連
- 3 いししょうと練習を大切にしている連
- 4 伝とうと特色を大切にしている連

(2) 【資料1】をよく読み、【新聞の下書き】の中の「おどり広場のよさ」について、イに、「演舞場のよさ」と同じような書き方で書きましょう。

イ

二 小林さんの班は、もう少しくわしく調べて、新聞を仕上げることにしました。そこで、土曜日の午前中に、同じ班の人と五人で、「おどり体験」をするために施設に行くことになりました。ただし、時間の関係で、施設の中のミュージアムへは行きません。小林さんは、班の全員がわかるように、【資料2】をもとに、【連絡メモ】を作り、班の人に配ります。【資料2】と【連絡メモ】を見て、次の問いに答えましょう。

【資料2】

阿波おどりを知ろう 体験しよう

知っていますか？

知ろう

★ミュージアム（3階）で阿波おどりの歴史をしょうかい

体験しよう

★ホール（2階）で連のおどりを見たあと、「おどり体験」

■開館時間

午前10時～午後5時

★ミュージアムでは
阿波おどりの歴史が
わかるよ★

★阿波おどり体験ができるよ★
(連のおどりをみるのと合わせて40分間)

<p>月～金曜日は1日3回</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 20%;">1回目</td><td>午後2時から</td></tr> <tr><td>2回目</td><td>午後3時から</td></tr> <tr><td>3回目</td><td>午後4時から</td></tr> </table>	1回目	午後2時から	2回目	午後3時から	3回目	午後4時から	<p>土・日・祝日は1日4回</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 20%;">1回目</td><td>午前11時から</td></tr> <tr><td>2回目</td><td>午後2時から</td></tr> <tr><td>3回目</td><td>午後3時から</td></tr> <tr><td>4回目</td><td>午後4時から</td></tr> </table>	1回目	午前11時から	2回目	午後2時から	3回目	午後3時から	4回目	午後4時から
1回目	午後2時から														
2回目	午後3時から														
3回目	午後4時から														
1回目	午前11時から														
2回目	午後2時から														
3回目	午後3時から														
4回目	午後4時から														

★入場料のお知らせ★

	おとな 大人	中学生・小学生
ミュージアム	300円	150円
阿波おどり体験	500円	250円

★「おどり体験」をしよう★

(1) 日 時 7月5日(土曜日)

* 集合時こく 午前10時30分

(2) 持っていくもの

①「阿波おどり体験」の入場料

一人 円

②メモ・カメラなど(記録のために)

みなさんへ

「阿波おどり体験」の1回目は、

に始まります。

(1) 【連絡メモ】の と の中に入るふさわしい言葉や数字を、【連絡メモ】に

合わせて、横書きで書きましよう。

...

...

(2) 「みなさんへ」の の中には、小林さんが班の人に伝えたい言葉が入ります。あなた

なら、どんな言葉を書きますか。前の文に続けて、【連絡メモ】に合わせて、横書きで、一文で書きましよう。

2 水の使用量の変化について(報告文づくり)

名前

田中さんは、水の使用量について調べ、報告文にまとめました。次の報告文をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

水の使用量の変化

五年二組 田中 ひろみ

一 調べた理由

わたしは、ニュース番組で、このまま雨がふらない日が続くと、ますます水不足の心配があり、使う水の制限をしなければならぬだろうと伝えているのを聞いた。「水を大切に」というポスターを学校でもよく見かける。そこで、実際に水の使用量がどのように変化しているのかについて調べ、そこから、わたしたちにもできるよりよい水の使い方について考えることにした。

二 調べたこと

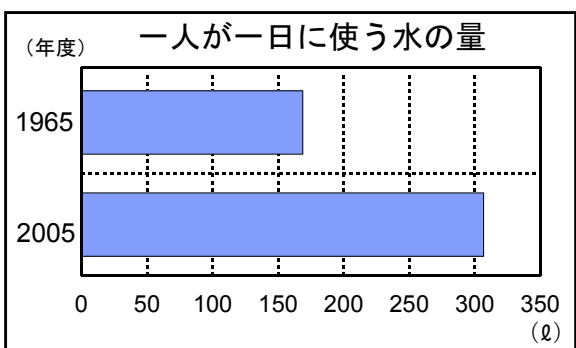
理科図かんと社会科資料集から、水の使用についてまとめた。

(1) 理科図かから

地球にはたくさんのお水があり、地球を何度もめぐる旅をしている。しかし、実際に人間が使えるのは、地球のお水の一万分の一で非常に少ないと言える。

(2) 社会科資料集から

昔、水は川や井戸からくんでいたため、水を運ぶのに、かなりの力と時間が必要であった。せんたくも川でしている人が多かった。家で、かん単に水を使うことができない生活であった。時代の変化によって、家庭に水道が広まり、じゃ口をひねるとかん単に多量の水が出せるようになった。また、家庭用のふるや電気せんたく機、水せんトイレなどでもしだいに広まってきた。そのため、一九六五年とくらべて、二〇〇五年には



(国土交通省「日本の水資源」平成20年度版より作成)

★ 1

が約二倍になっている。

三 まとめ

わたしたちが、給食の前や外出の後に水道の水でよく手をあらうことや、毎日ふろに入って清潔にすること、よく衣服をせんたくすることなどは、衛生的で健康的な生活のために、とても大事なことだと思う。その一方で、便利な生活になったことが、水の使用量を増やす原因の一つになっていることがわかった。このまま便利な生活が続くと、使用量はもっと増えることになるかもしれない。しかし、人間が使える水にはかぎりがある。

そこで、水の使用量をできるだけ増やさないためには、どのようなことに気をつけていけばよいのかについて考えた。たとえば、

★ 2

このように、よりよい水の使い方をし、クラスみんなにもよびかけながら、水の使用量を減らす努力を続けたい。

「(2) 社会科資料集から」の中の最後の文は、報告文の中のグラフをもとにして書かれたものです。

★ 1

にふさわしい言葉を書きましょう。

中田さんの学級では、最近のニュースから興味をもったことについて調べ、新聞にまとめることになりました。次は、中田さんのグループが「トキ」についてまとめた【新聞の一部】です。これを読んであとの問いに答えましょう。

【新聞の一部】

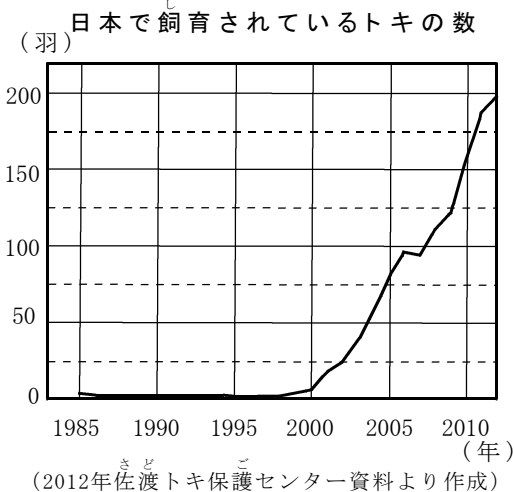
トキ新聞

平成二十四年十二月五日
五年一組 北西 中田
高山 山村

A

トキは、日本を代表する鳥で、ニッポニア・ニッポンとも言われています。顔と足が赤く、サギに似た鳥です。特に独特のうすもも色をしたきばれいな羽の色は、とき色と呼ばれています。長い間、絶滅の危機にありましたが、日本では、今から百五十年ぐらい前まで全国にたくさんいたトキが、減ってしまった。しかし、日本のトキも死んでしまった。中国からトキを借

りるなど、さまざまな努力により、現在日本では、トキの数は二百羽までにふえてきています。



トキが減った理由

- 羽が、工芸品やほうき、ふとんなどに使われた。
- 食用にされた。
- 木が切られて巣を作ることができなくなった。
- 自然かん境がこわされたり農薬の使用がふえたりして、えさとなる小さな生物が減った。



トキを守る①

新潟県佐渡島の「佐渡トキ保護センター」を中心に、中からトキを借りて、次のようにならまいます。活動が続けられていきます。野生のトキが生まれるのを待ちます。訓練した鳥を返すには、野生のトキが生まれるのを待ちます。訓練した鳥を返すには、野生のトキが生まれるのを待ちます。

トキを守る②

ニューズにも取り上げられています。トキが住みやすいかん境を作るために、地元の小学生も大人も協力して次のような活動をしています。田の整備に使った川をきれいにする。トキが巣を作るための木の世話をします。

トキ保護の年表

- 1960年 トキが国際保護鳥に決まる。
- 1967年 トキ保護センターを建設。3羽の飼育を開始する。
- 1999年 中国から2羽を借りる。中国から来たトキにヒナが1羽生まれる。
- 2003年 日本産最後のトキが死亡。
- 2006年 18羽のヒナが生まれる。
- 2008年 10羽のトキを自然にもどす。(27年ぶり)

※国際保護鳥
世界で保護すると決めている鳥



エサは、小川や田んぼに
いるかえるやどじょう、
小魚だよ。

トキについて調べた感想

絶滅つするかもしれないな。佐渡トキ保護センターと住民による二つの活動があったからだと思います。その活動とは、

B

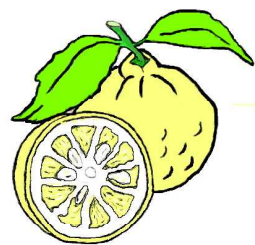
多くの人がトキを守るために努力していたので、びっくりしました。トキが住み続けることのできるかん境は、多くの生き物にとっても、人間にとっても、安心できるものだと思いました。

早川さんのグループでは、ゆずについて調べたことをリーフレットにまとめることになりました。早川さんたちが調べた次の「資料1」を読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料1】

ゆず

ゆずは、みかんなどのかんきつ類の仲間です。黄色く、でこぼこした厚い皮が特ちょうです。冬にたくさん収穫されており、国内生産量は、高知県が一位で、次が徳島県です。



ゆずの皮や果汁は、独特のさわやかなおりと酸味があり、いろいろな使い方で人々に広く親しまれています。

どのような使い方があるのでしょうか。

ゆずの皮やしぼった果汁は、主に料理に使われます。ゆずは、料理の引き立て役として日本料理には欠かせない重要な食材です。果汁は、調味料として、かおりや酸味を加えるために用いられます。皮は、細く切って汁物に入れるなどして、よ

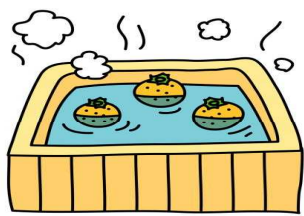
(右下に続く)

りかおりを楽しむことができます。また、皮の色を生かして料理にそえる使い方もあります。

ゆずがこのように使われているのは、かおりや酸味だけが理由ではありません。ゆずには、ビタミンCやカルシウムなど、体に大切な成分が多くふくまれているからです。

ゆずは、料理以外にゆず湯として使われます。ゆず湯とは、ゆずをうかべたおふろのことです。

日本には、古くから冬至にゆず湯に入る習慣があり、「冬至にゆず湯に入るとかぜをひかない」と言われています。それは、ゆず湯に入ると、ゆずの皮にふくまれている油分で血液の流れがよくなり、体が温まるからです。また、ゆずのかおりが広がり、いい気分にもなります。冬にゆず湯に入る家庭が多くなるのは、そのためです。



早川さんたちが調べた「資料1」には、どのようなことが書かれていますか。その内容としてもふさわしいものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号に○を付けましょう。

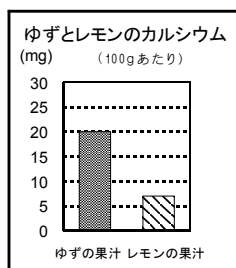
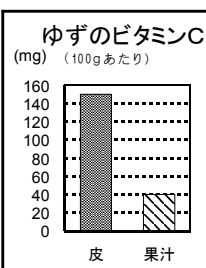
- 1 ゆずがたくさん取れる地域の地形の持ちようについて説明している。
- 2 ゆずが料理の中心として日本料理には欠かせないことを説明している。
- 3 ゆずの酸味を味わうために皮を細く切る方法について説明している。
- 4 ゆずのかおりや酸味を生かすいろいろな使い方について説明している。

【リーフレットの一部】

● ゆずの栄養について

- ・ゆずには、ビタミンCやカルシウムなど、体に大切な成分が多くふくまれている。
- ・ゆずの皮と果汁を比べると、皮の方が果汁より、ビタミンCが多くふくまれている。
- ・ゆずの果汁とレモンの果汁を比べると、

A



(「五訂増補日本食品標準成分表」より作成)

● ゆずのよさ、大発見！！

ゆず湯をおすすめします。その理由は、

B

あなたもゆず湯を体験してみませんか。

ゆず大発見！



5年1組

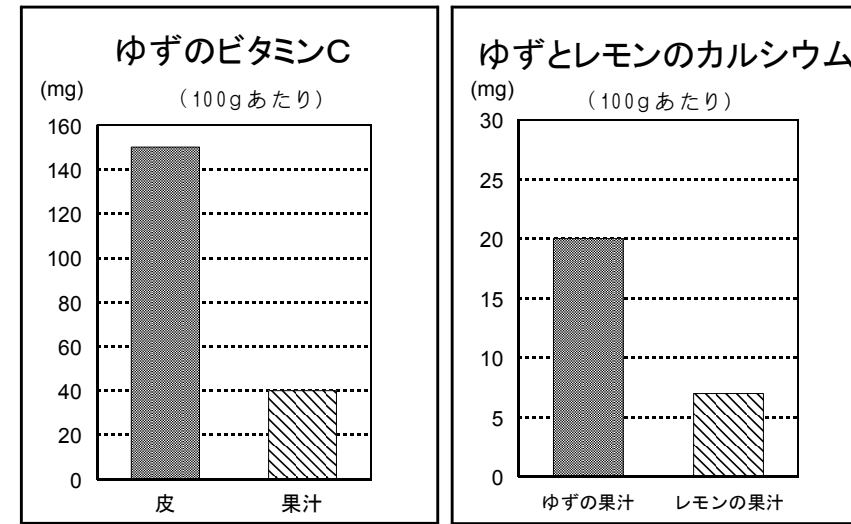
・早川 ・西村
・今村 ・山下

二 早川さんたちは、【資料2】のグラフを見つけ、【リーフレットの下書き1】にまとめました。あとの【リーフレットの下書き1】の **A** の中に入る言葉を、次の【条件】に合わせて書きましよう。

【条件】

- 【資料2】のグラフから分かることを、【リーフレットの下書き1】の書き方に合わせて書くこと。
- 「ゆずの果汁とレモンの果汁を比べると、」に続くように書くこと。

【資料2】



(「五訂増補^{ていぞうほ}日本食品標準成分表」より作成)

・ ゆずの果汁とレモンの果汁を比べると、

◆

※◆の印から書きましよう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましよう。

【リーフレットの下書き1】

● ゆずの栄養について

・ ゆずには、ビタミンCやカルシウムなど、体に大切な成分が多くふくまれている。

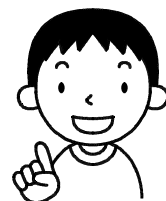
・ ゆずの皮と果汁を比べると、皮の方が果汁より、ビタミンCが多くふくまれている。

・ ゆずの果汁とレモンの果汁を比べると、

A

三 早川さんたちは、ゆず湯のよさを【リーフレットの下書き2】に書きました。あとの【リーフレットの下書き2】の **B** の中に入る言葉を、次の【条件】に合わせて書きましょう。

- 【条件】
- ○ 西村さんや早川さんの意見を受けて、【資料1】の内容を取り上げて書くこと。
 - 「その理由は、」に続くように、四十字以上、六十字以内でまとめて書くこと。



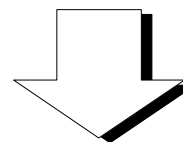
ゆず湯に入ったことがあるよ。
いいかおりがするよ。

西村さん



ゆず湯のよさは、2つあるね。
みんなにゆず湯のよさを知らせたいね。

早川さん



【リーフレットの下書き2】

● ゆずのよさ、大発見！！

ゆず湯をおすすめします。その理由は、

B

あなたもゆず湯を体験してみませんか。

ゆず湯をおすすめします。その理由は、

◆

40字

60字

※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、
続けて書きましょう。

5 折り紙について(ポスターづくり)

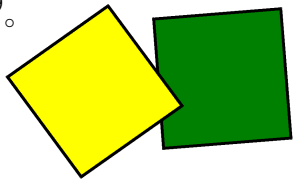
名前

小林さんは、折り紙について調べ、「資料1」「資料2」「資料3」の三つの資料を準備しました。そして、これらの資料をもとにポスターを作って、折り紙について発表することにしました。

【資料1】

日本の伝統文化、折り紙

折り紙は一枚の紙を使って、折ることだけで形を作り、それを使って遊んだり、かざったりします。そのできあがりの種類は動物・植物など多種多様で、見るだけでも楽しむことができます。



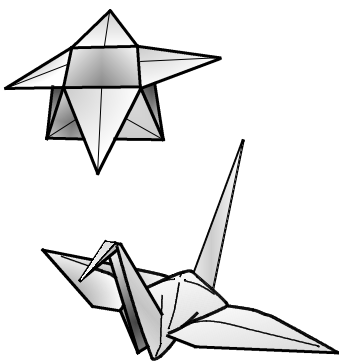
昔から、子どもにも大人にも人気がありました。今、折り紙は、世界中で親しまれていて、「オリガミ」は世界の共通語になっています。また、外国の方を招いた折り紙教室も日本の各地で開かれています。折り紙を通して日本の伝統文化を伝える国際交流がさかんに行われているのです。

折り紙には長い歴史があります。今から千年以上前の平安時代、貴族の間で、紙を使っておくり物を

(右下に続く)

美しく包むことが流行しました。これが折り紙の原点だと言われています。やがて、つるややつこなど、物の形に見立てた作品が作られるようになりました。これらは、病気が治るようになるなどの願いをこめて折られたという説があります。子どもの遊びや大人の楽しみとして急速に広がったのは江戸時代の半ばごろからです。明治時代になると、色のついた正方形の紙が折り紙として大量に生産されるようになりました。小学校の授業で教えていたそうです。

たった一枚の紙を、くふうをこらして何ものにも変化させてしまう折り紙は、世界にほこる日本の伝統文化といえるでしょう。



(「日本の伝統文化・芸能事典」などより作成)

【資料2】

折り紙についてのインタビュー

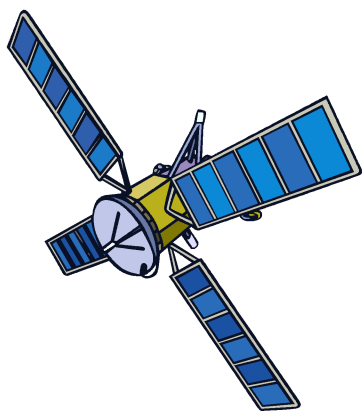
小さいときは、よく折り紙で遊びました。紙が貴重だったので、チラシやつつみ紙を正方形に切って折り紙を作っていました。今のようにおもちゃがなかったので、折り紙は何よりの楽しみでした。年をとった今も、折り紙は元気のもとです。指を動かすいい運動にもなります。折り紙を折っていると、心がなごみます。何より、折り紙をいっしょに作っている友達とおしゃべりが楽しめますね。今、リハビリなどの医りようの方法の一つとして、折り紙が見直されているんですよ。



折り紙の技術、宇宙に羽ばたく

折り紙を人工衛星に応用した日本人がいる。宇宙工学者の三浦教授だ。宇宙空間で太陽光発電を行うためには、軽くて、しかも広い羽が必要となる。それをロケットにのせて打ち上げるわけだから、できるだけ小さくたたまなければならない。その仕組みを開発したのが三浦教授だ。

その仕組みは、一枚の紙をくしゃくしゃに丸め、それを広げたときにできるしわの研究から始まった。それは、まさに折り紙の技術そのものであった。折り紙の技術が最先端技術となって宇宙で活かしているのである。



(JAXA ホームページ、ミウラ折り公式ページなどより作成)

動物園へ行った宮田さんと上川さんは、動物のねむりについて興味をもちました。そこで、子ども向けの雑誌の中から動物のねむりについて書かれた記事を読みました。次の【月刊「レッツトライ！ 科学」の一部】を読んで、あとの問いに答えましょう。

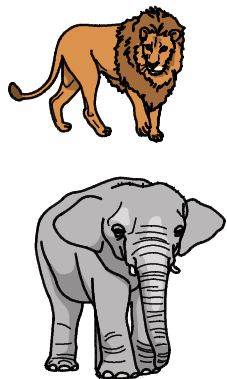
【月刊「レッツトライ！ 科学」の一部】

特集 「ねむり」のなぞ — 第二回 動物たちのねむり —

動物たちはなぜねむるのか？

動物にとってねむることは、きけんをとまなう命がけのこういひです。それにもかかわらず、動物たちはねむります。

ねむりは、脳が休息している状態です。脳が発達した動物にとって、ねむりは欠かせないものなのです。動物たちは生きていくために、かぎられた条件と時間のもとで、いろいろなねむり方をしています。



動物たちのいろいろなねむり方

<その1> 食べながらねむる！

ウシ・ヤギ・ゾウなど草食動物は、栄養をとるために、植物を食べ続けなければなりません。中でも、ウシやヤギは消化の悪い草から栄養をとるため、長い時間反すう（いったん食べたものを口にもどして、もう一度かみくたく消化方法）しなければなりません。だから、「うとうと状態」でも、食べた草を反すうしているのです。

ところが、人間が消化のよいエサをウシにあたえると、「うとうと状態」がへり、深いねむりがふえるという変化が起きました。

<その2> 立ったままねむる！

草食動物のゾウ・ウマ・キリンなどは、肉食動物から身を守るために、立ったままねむります。生まれて9か月の赤ちゃんゾウが「立ちね」をしたという記録が残っています。ゾウやキリンは、すわってねむることがあっても、20分ぐらいというきわめて短い時間だそうです。

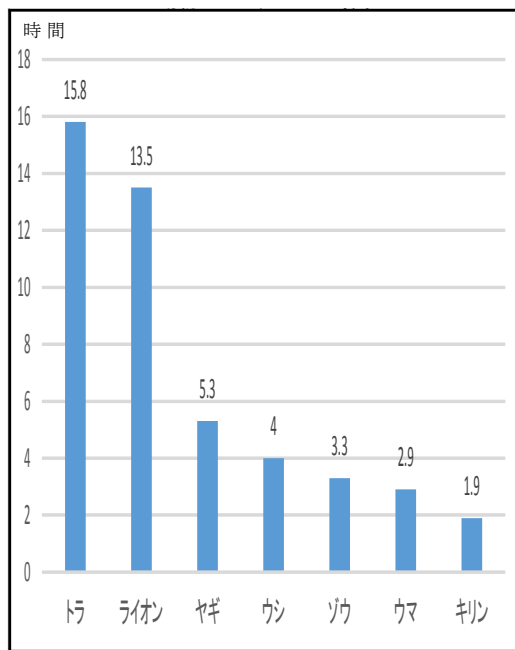
<その3> 準備運動をすませてからねむる！

小動物を食べるキツネは、地面をひっかき、その場所で一方向にぐるりと回り始め、それから逆方向に回転し、口ひげを整え、そこにうずくまり、しっぽを弓のように折り曲げ、ねそべります。

あおむけになり、ゆったりとねむることができるのは、ライオンやトラたちだけ！

動物たちのすいみん時間の調査

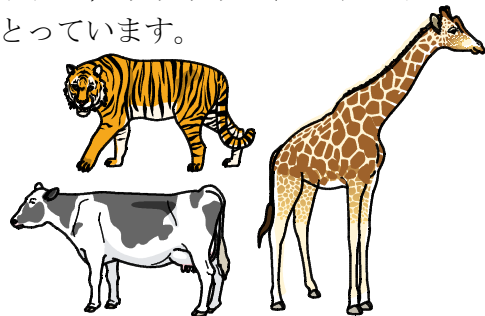
■動物たちのすいみん時間



いのうえしろうじろうねむ (井上昌次郎「眠りを科学する」より作成)

見晴らしのよい草原では、草食動物は、いつ肉食動物におそわれるかわかりません。高くしげった木のわきにかくれるていどで、安全な「ねぐら」ありません。深くねむってしまうのはたいへんきけんです。だから、すいみん時間は短く、こきざみに浅いねむりをくり返します。

ときにおそわれる心配のない肉食動物は、ゆうゆうと長いすいみんをとっています。



夜にねむる？ 昼にねむる？

昼にねむり、夜に活動するライオンやトラなどは、夜行性です。夜にねむり、昼間に活動するゴリラやオランウータン、キリンなどは昼行性です。こういったねむりのリズムを動物たちは生まれながらにもっています。

ところが、人間と行動をともにすることにより、昼行性へと変わった夜行性動物がいます。例えば、イヌは、オオカミと同じように、夜、えものがねている間にかりを始める夜行性動物だったのです。しかし、人間に飼われ、かりの必要がなくなり、人間に合わせて生活する中で、イヌは昼行性へと変わったのです。



動物たちも夢を見るの？

多くの動物は夢を見ていると考えられています。その根拠として、ネコでの実験があります。実験では、ねむっている状態のネコが、起き上がり、とびかかったり、にげだしたり、まるで夢の中でなにかにしているような動作をしたのです。



大西さんの学級では、読書新聞を作って読んだ本をしようかいすることになりました。大西さんと西川さんは、新美南吉作「ごんぎつね」をしようかいする読書新聞を書きました。次の「大西さんが作った読書新聞」と「西川さんが作った読書新聞」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

「ごんぎつね」新聞

発行 11月9日
発行者 大西 明

ほんとうは、「んは？」

畑のいもをほりちらかしたり、ほしてあるなたねがらに火をつけたり……、ごんは、いたずらばかりしていました。とうとう、ごんのいたずらのせいで、兵十のおつかあは、うなぎを食べられないまま死んでしまいました。ひとりぼっちになった兵十に、ごんはつぐないをしようと、いわしを投げ入れたけれど、結局、兵十をひどい目に合わせてしまいました。

このいたずらの一歩おくにあるごんのほんとうの気持ちを想像しながら読むと、兵十のことを心配する、心やさしいごんのすがたがうかんできます。「ほんとうは、ごんは？」と問うことを通して、すなおで一生けんめいなごんの気持ちにせまることができます。

心に残る「一文」

次の日も、その次の日も、「ごんは、くりを拾っては、兵十のうちへもってきてやりました。」

《説明》

一生けんめい兵十をなぐさめようとしているごんのやさしさが伝わってきます。この前、友達の言葉の表面だけをとらえて、けんかをしてしまいました。この一文はそんなぼくに、「ほんとうの気持ちに気づいて」と語りかけてくれます。



読者へ一言

「ほんとうは、ごんは？」と問いながら読み始めたきっかけは、同じ作者が書いた「てぶくろを買いに」です。物語の中で、母さんぎつねが「ほんとうに、人間はいいものかしら。」とつぶやきます。その答えを求めて、ほんとうの気持ちやすがたを考えながら「ごんぎつね」を読むようになりました。

「ごんぎつね」新聞

発行 11月9日
発行者 西川 花子

★

「ごん、お前だったのか、……。」

兵十が、ごんの思いに気がついたのは、ごんが火なわ銃で打たれ、たおれたあとでした。なぜ、もっと早く気づくことができなかったのでしょうか。ごんも兵十も、けつして悪い人物ではないのに、なぜ、こんな悲しい結末になるのでしょうか。「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました。」という物語の最後の一文に、兵十のこうかいと、ごんの悲しさやくやしさが重なり、読み返すたびにむねがいたくなります。

ごんと兵十、それぞれの立場に立って読むと、心がすれちがうことの悲しみ、わかり合うことのむずかしさがひしひしと伝わってきます。

心に残る「一文」

兵十のかけぼうしをふみふみ、行きました。

《説明》

兵十のかけをふめるほど近くににいるのに、ごんは、どうしても声がかげられない。わたしにも、「ごめんなさい」の一言が伝えられず、苦しい思いをしたことがあります。だから、この一文のごんの苦しさやつらさを、自分のことのように感じます。



読者へ一言

心のすれちがいやえがいたほかの物語を、いっしょに読んでみましょう。たとえば、あまんきみこ作「おにたのぼうし」も、心がすれちがうことの悲しみをえがいた物語です。「ぼくは、おにだよ。」の一言が言えずに消えてしまう主人公のおにたと、自分の思いを伝えられないごんのすがたが重なってきます。一つの物語を重ねて読む中で、ごんのつらさや悲しさがより強く感じられますよ。

一 【西川さんが作った読書新聞】の★に入る見出しとして、もっともふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 心やさしいごんのつぐない
- 2 いたずらをしたごんのこうかい
- 3 すれちがうことの悲しみ
- 4 ごんと兵十の深い結びつき

二 大西さんと西川さんの読書新聞の「心に残る」の一文の《説明》の文章には、共通している書き方のくふうがあります。もっともふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 ことわざや言い伝えを引用している。
- 2 自分の経験と結びつけて書いている。
- 3 たとえやかざる言葉を多く用いている。
- 4 ごんに話しかけるように書いている。

三 大西さんは、「西川さんが作った読書新聞」の「読者へ一言」を読んで、気がついたことを話しました。「大西さんが気がついたこと」の「ア」・「イ」に入る言葉を、次の「条件」に合わせて書きましょう。

【大西さんが気がついたこと】

ぼくは、同じ新美南吉が作った物語を読むことによって、

ごんのほんとうの気持ちやすがたを考えながら読むようになりました。

西川さんは、読むことによって、

ごんのことができたのだと思います。



【条件】 ○ 西川さんの読み方や感じ方を【西川さんが作った読書新聞】の言葉を使って書くこと。

○ アは、「西川さんは、」に続けて書き始め、「読むことによって、」につながるように、十字以上で書くこと。

○ イは、「ごんの」に続けて書き始め、「ことができたのだと思います。」につながるように、十字以上で書くこと。

ア…西川さんは、

読むことによって、

イ…「ごんの

ことができたのだと思います。

8 六年生としてがんばりたいこと

名前

林さんの学級では、「六年生としてがんばりたいこと」を書くことにしました。次は、林さんが最初に書いた【文章1】と書き直した【文章2】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章1】

わたしは、五年生の時、図書委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、みんなに本を大切にすることを知ってほしいという思いをもち、大切に読むことができていく学級の様子をろくがして、各学級にしようかいいたいという活動がすばらしいと思いました。

この話を聞き、五年生の時に、し育委員会で行った活動をふり返りました。そして、当番の日にえさやりやそうじをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動をてい案できなかったことを反省しました。

わたしは今年、ほ健委員になりました。毎日の生活の中で、健康に目を向け、みんなが健康な生活を送ることができるようになり、手あらいの大切さやかんたんでみんなができる運動などを各学級にしようかいいたいです。

【文章2】

わたしがこの一年間でがんばりたいことは、ほ健委員としてみんなのことを考えた新たな活動を進めることです。

そう考えたのは、五年生の時、図書委員長の南さんが卒業する前に話してくれた、活動への思いがすばらしいと思っただけです。みんなに本を大切にすることを知ってほしいという思いをもち、大切に読むことができていく学級の様子をろくがして、各学級にしようかいいたいそうです。

この話を聞き、五年生の時に、し育委員会で行った活動をふり返りました。そして、当番の日にえさやりやそうじをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動をてい案できなかったことをはんせいしました。

わたしは今年、ほ健委員になりました。毎日の生活の中で、健康に目を向け、みんなが健康的な生活を送ることができるようになり、手あらいの大切さやかんたんでみんなができる運動などを各学級にしようかいいたいです。

一 林さんは、【文章2】の の部分をどのようなことに気をつけて書いていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 他の人が読みやすいように、事実と感想とを区別して、書き出しを書いている。
- 2 他の人が読みやすいように、自分の考えとその理由を最初に書いている。
- 3 自分の考えが明確に伝わるように、自分の考えを最初に書いている。
- 4 自分の考えが明確に伝わるように、書き出しをくふうしている。

二 林さんは、【文章2】の の部分をどのようなことをくふうして書いていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から二つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 自分の考えが伝わるように、南さんの取り組みと比べて書いている。
- 2 自分の考えが伝わるように、南さんの言葉を引用して書いている。
- 3 読み手を意識して、自分の取り組みを分類して書いている。
- 4 読み手を意識して、自分の取り組みに対する感想を述べている。

【読むこと」「書くこと」の活用問題 解答】

1

一 (1) 4

(2) おどる人と一体となって、じかにおどりを楽しむことができること

※書き方が「演舞場のよき」と同じような書き方（文末は「できること」「」であれば可。

二

ア 250
イ 午前11時

※「午前」や「時」を使い正しく時刻が書けていること。

(1)

例 集合時こくにおくれな
いように来てください。

例 おどり体験を楽しみ
ましょう。

※前の文をうけ、おどり体験をするために、一緒にいく友達に対しての言葉として、一文で書いていれば可。

(2)

2

一 一人が一日に使う水の量

二 例 歯みがきをするときは水を出しっぱなしにしないことや、おふろの残り湯はせんとくに利用して水をせつやくすることである。

※「水の使用量を増やさないために気をつけていくこと」について、ポスターの[ア]から[エ]の中から二つ選び、四十字以上六十字以内にまとめて書いていること。

3

一 2

二 例 (その活動とは) 中国からトキを借りてトキを増やす活動と、トキが住みやすいかん境を作るための活動でした。

※同意可。「二つの活動」が書けていること。三十五字以上五十字以内で書いていること。

4

一 4

二 例 (ゆずの果汁とレモンの果汁を比べると) ゆずの方がレモンより、カルシウムが多くふくまれている。※同意可。

三 例 (その理由は) ゆずの皮にふくまれている油分で血液の流れがよくなり、体が温まるからです。また、かおりが広がり、いい気分になるからです。(59字)

※同意可。四十字以上、六十字以内で書いていること。

5

一 A 4 B 1

二 ア 国際交流 イ(リハビリなどの) 医りようの方法の一つ ウ 最先たん技術

※ひらがなでも可。ア「日本の伝統を伝える国際交流」でも可。イ「リハビリ」または

「医りようの方法」だけでも可

三 例 長い歴史をもち、たくさんの人に愛されているだけでなく、さまざま可能性をもつ折り紙は、日本のすばらしい伝統文化だと思う。(60字)

※同意可。四十字以上、六十字以内で書いていること。

6

一 3

二 2・4 ○両方合っていること。順不同。

三 例 (草食動物の) すいみん時間は短く、食べながらねむったり、立ったままねむったりしている。(36字)

※同意可。二つの記事を使って書いていること。「…たり、…たり」という言葉を使って一文で書いていること。三十字以上四十字以内で書いていること。

7

一 3

二 2

三 ア 例 (西川さんは) 心のすれちがいをえがいたほかの物語を(読むこと)によって

例 (西川さんは) あまんきみ「作」おにたのぼうし」と重ねて(読むこと)によって

イ 例 (ごん)の(つむぎ)を悲しさをより強く感じる(こと)ができたのだと思います。

※西川さんの読み方や感じ方を、「西川さんが作った読書新聞」の言葉を使って書いていること。前後の言葉につながるように書いていること。

8

一 3

二 1・4

三 例 わたしの文章のよさは、今年がんばりたいことを伝えるために、南さんの話やし育委員会での活動で反省したことを書いたり、保健委員会で進めたい新たな活動を、最後の段落で具体的に書いたりしていることです。(98字)

※林さんの文章のよさ、「伝え合いの様子の一部」で伝え合ったことを基に書いていること。前後の言葉がつながるように書いていること。